

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2770108971		
法人名	社会福祉法人 エージングライフ福祉会		
事業所名	グループホームフローラ		
所在地	大阪府堺市中区福田549-8		
自己評価作成日	平成 29年 2月 28日	評価結果市町村受理日	平成 29年 5月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;Jizvovocd=2770108971-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;Jizvovocd=2770108971-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 3月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設的な雰囲気はなく、家庭的であるようにしています。初めて来所される方も「家庭的でいいですね」と声をかけて頂いています。ADLの自立されている方が多いため、皆で同じ絵画を協同作業をして仕上げてもらっています。又、調理などにも参加をして頂き、利用者の残存機能を活かして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームから徒歩5分の距離に立地する特別養護老人ホームを始めとする施設サービス、居宅介護サービスを運営する社会福祉法人が、住み慣れた地域で安心して明るい長寿生活を送れるようにとグループホームフローラを設立して12年目を迎えています。法人からのバックアップを得ながら、同じ地域にある同法人のグループホームと運営推進会議で連携をしています。毎年度フローラとして「介護理念における介護目標」を設定してサービスの向上とより良いケアに努めています。管理者は介護計画の作成を兼ねており、利用者の生活全般をトータルに把握して支援しています。職員は、高齢化・重度化する利用者に痛みのない介助を行うこと、利用者の体調と訴えを自分の親のことであり、目配り、気配りをしてできる限りのことができるよう思いやりと心遣いを大事に日々利用者へ接しています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は常に目に留まる場所、玄関1階、2階フロアー、休憩所に掲示し共有し、実践に繋げている。達成度の評価も定期的に行っている。	法人理念は、職員や来訪者がいつでも目にすることができるように、玄関、フロア、職員休憩所等に掲示して共有を図っています。グループホームフローラとして毎年度策定の「介護理念における介護目標」を平成29年度は『1、高齢者の人権を尊重し共感的態度で接し、接遇の基本を守る。2、高齢者が安全・安心が得られるよう支援する。3、やりがいのある介護を実践する。』として周知と共有に努め、半年に一度職員に達成度と自己評価を実施して理念の実践に活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とは気軽に挨拶を交わし、季節の野菜や、お花を頂く事もある。又、フローラの玄関先の広場は、子供たちの遊び場所でもあり、挨拶及び交流が出来ている。	同法人の特養等と同じ地域にあることから、地域の住民とは自治会や地域行事で連携や繋がりを深めています。毎年、ホームにだんじりが立ち寄り、地域行事にも利用者は職員と参加しています。ホームに隣接している畑の持ち主よりもらえるコスモスなどの花は、ホームの季節の彩りとなっています。えんどう豆等の野菜は食事に添えられています。近くに住む方々と挨拶を交わして繋がりを深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p><b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>近隣の散歩や日常の買い物、喫茶店など利用する際、理解を得られるよう協力をお願いしている。又散歩等の時には必ず挨拶を交わし自然に溶け込むようにしている。</p> <p>法人の多目的ホールを使用し、近隣住民に「認知症サポーター養成講座」の開催も行った。</p>		
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回の開催を行い、地域住民の方々と交流を図る場、併せて地域から代表して、自治会連合会長・民生委員・地域包括センター職員・知見・家族に参加して頂き、事業所の活動報告を行っている。昨年度より参加家族も1名増え、様々な提案や、アドバイスもいただき、サービスの質の向上にもつながる様努めている。</p>	<p>運営推進会議は規程に基づいて、奇数月の2か月に一度、同じ地域にある同法人のグループホームと参加者が共通の為、合同で開催しています。前自治会長、知見者、地域包括支援センター職員、利用者家族・利用者の代表、同法人特養施設長の参加を得ています。会議ではレジュメを作成して活動状況報告、利用者の入退所、職員状況、行事、事故・ヒヤリハットなどの報告を基に意見を得ています。会議の議事録を作成しています。</p>	<p>会議の議事録は利用者すべての家族に配付、または来訪時に自由に閲覧できるようにして、会議の理解と運営の協力が得られるようにされてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会に包括担当者の出席もあり、相談・助言をしていただきやすい環境となっている。又入所状況を堺市に報告も行っている。 空室があれば電話やFAXにて、情報を共有し、入居へと繋げている。</p>	<p>市の担当課とは常に連携を図っており、市から空室状況の確認をもらい、入居希望者の情報を得ています。区の担当課には事故報告の提出を速やかに行っています。区の取り組みの認知症サポーター養成講座をグループホーム協議会と連携して行っています。地域包括支援センターが行うパワーポイントによる小学生向けの認知症の取り組みに参加しています。平成28年度の認知症セミナーの寸劇や、「親子で学ぶ認知症」としての紙芝居『大好きなおばあちゃん』では、区内のグループホームの分担として紙芝居の1枚を利用者と作成しました。</p>	
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束防止委員会の勉強会等で職員が正しく理解できるように努力している。 新入職者にはオリエンテーションにて研修を行い、正しく理解が出来る様努めている。</p>	<p>2ヵ月に一度開催される法人主催の身体拘束防止委員会で管理者が委員長をしており、職員は年に一度開催の法人合同の勉強会に参加して、身体拘束をしないケアの取り組みを積極的に行っています。ホームの玄関は日中開錠しています。ユニットの入り口は利用者の安全への観点から施錠していますが、利用者の意向を遮ることなく、外出にいつでも同行して、思いに寄り添う支援をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束・高齢者虐待委員会の研修会において、学ぶ機会を持っている。</p> <p>委員会には新職員を担当させ、2か月に1回の委員会にも出席し虐待防止の徹底を図っている。</p> <p>又、職員一人一人の認識の相違がないか注意を払っている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者個々が不安を訴える時等は傾聴する事を心掛け安心して頂く様努力している。</p> <p>又後見人の方とも連携を図っている。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族からの不安や、疑問点があれば管理者として、理解して頂ける様説明を行なっている。</p> <p>又改定等の際は説明と同時に同意書も提出してもらっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所時には意見・要望を言いやすい雰囲気作りを行い、何気ない会話の中に家族の想い等見出している。又、意見箱も玄関に設置している。	1階に意見箱を設置しています。家族の来訪時には、家族が積極的に話せるよう雰囲気作りに努め、意見が聞けるようにしています。外出カードに家族からコメントが寄せられる場合もあります。「フローラ通信」でホームの近況・情報を知らせるほか、利用者の担当職員が毎月利用者の様子を知らせる写真やコメントを載せた「フローラ新聞」を家族に配付しています。	家族にホームの運営状況の理解を更に得られるように、外部評価の結果報告書と家族アンケートの集計を、家族の来訪時に自由に閲覧できるようにされてはいかがでしょうか。また、職員の顔写真と名前、職員の一言アピールやメッセージ等を掲示されてはいかがでしょうか。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回夜勤者・明職員以外は全員参加で意見や提案を討論する場を設け反映させている。又、利用者により良いケアが提供出来る様に取り決めを行っている。翌月は反映できているか振り返り、話し合っている。	管理者は、職員がいつでも相談や提案などが話せるようにしています。毎月の業務会議でも職員が意見を表出できる機会となっています。職員は、個別の目標設定と達成に向けた取り組みと実践内容における反省を毎月提出し、キャリアアップを図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常に職員の声や勤務状況を把握出来る様に努力している。又個々の心配事や悩み、相談など出来る雰囲気作り等、相談できる環境に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症サポーター養成講座を開催するにあたり、キャラバンメイトの講習会に参加した。 職員一人一人の力量を把握しそれに応じたケアの方法を考え、職員の質の向上を目指した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回中区グループホーム連絡会に参加し、交流や意見交換を行っている。又グループホームの管理者や職員、包括職員と共に小学校や高校等に認知症啓発の為に講座を開き、啓発運動を行っている。 各グループホームの空室情報も共有している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の話を聞きとり、施設に入居するが、なるべく、在宅で過ごしていた環境に近い状態で支援が出来る様に話をし、本人及び家族に安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅で見られない事を考慮し、本人が穏やかに過ごす事で、安心して頂く様心掛けている。 又初期段階で、信頼関係に繋がるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の病気の都合等で、緊急を要するような時も、安心して頂ける様、本人との面談をスムーズに行い早急に対応した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の気持ちに共感し、調理・洗濯物・洗い物等、暮らしを共にしていると いう実感が得られるよう支援している。 職員が利用者に指示する事のないよう 又、人生の先輩と思い尊厳の念を忘れる事のないように指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のフローラ新聞に、日々の暮らしの様子を伝え、家族が安心して頂けるような報告をしている。 又、面会時には体調や状態の変化等も伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新入居の方など、これまでと同じような環境で過ごして頂くため、夫や家族・兄弟を含め関係を継続している。 又、孫の結婚式に出席の為、東京まで外泊した利用者もいる。	家族の来訪時に馴染みの喫茶店に外出したり、美容室へヘアカラーに出かける利用者もいます。入居前の近隣の人に声をかけてもらい交流が継続しています。散歩で姉妹の家に立ち寄る利用者もいます。職員は、ホームの公衆電話で家族や友人に電話をかけられるように支援をして、これまでの関係が途切れないように配慮しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、毎月の壁画を力量に応じて完成させ、又同じテーブルで談笑したり、関わりを持つ様に支援している。 食事の後、利用者同士、声を掛け合い下膳など行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談や支援を行うつもりで、家族には声をかけさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切に、その人らしく常に念頭に置いている。 職員と共に近隣の喫茶店などに出かけ、気分転換を図っている。	日常生活自立度(認知症の度合い)が比較的軽度な利用者は自分の言葉で話せるので、思いや希望を日常の会話やケアの中から把握しています。重度になり、自らの思いの表出が難しくなっても、日々の関わりの中でのしぐさや表情から汲み取り、職員間での気付きを確認し合って、できる限り本人の意向に沿ったケアに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書道の得意な方には、毎日の食事のメニューを記入して頂いたり、裁縫などもお願いしている。 自宅からの入居の場合出来るだけ自宅に近い状況での支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に合った1日の過ごし方を基本に、その人らしい生活を送って頂いている。  長時間の座位保持が出来ない方には、臥床時間を増やし対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当職員が、カンファレンス開催前に全職員に用紙を配布し、本人にとってより良いケアの方法、又本人の課題などの情報を集め、当日話し合い決定している。家族の何気ない言葉の中にもヒントをもらい、計画に反映している。その3か月後には評価を行い、現状の本人の把握に努めている。	介護計画は6ヵ月毎を基本に、必要に応じて適宜、カンファレンスを基に見直しを行っています。カンファレンスの内容は計画作成担当者が3ヵ月ごとに評価しています。介護計画書の短期目標に連動して職員が毎月計画に沿った実施のチェックとモニタリングを行っています。チェックの結果と現在の問題点を評価して、今後の対応を計画に反映させています。更新した計画書は家族の来訪時に同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人ケース記録に記載し、朝・夕の申し送り及び申し送りノートを活用し職員間で情報の共有を図っている。又問題があれば、介護計画を見直し、3か月後には評価も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気大切に、外出及び買い物には、直ぐに対応出来る様に努めている。 家族の希望で自宅まで送迎し、3、4時間の外出にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中区グループホームの連携により、ボランティアを紹介してもらい、1時間程度の歌や手遊び、頭の体操等、普段職員がしている事でも、目新しい事で楽しんでいただく様努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは、いつでも報告・連絡・相談が出来る関係を保っており、連携が出来ている。 夜間のオンコール体制や、緊急時の対応も整っている。 利用者が希望すれば受診の対応もしてもらっている。	ほとんどの利用者は隣接するクリニックの医師が主治医となっています。月2回の往診と24時間オンコール可能で、急変時にいつでも対応してもらえて安心できる連携関係ができています。 以前からのかかりつけ医を受診する利用者もいます。週に一度法人内の看護師の訪問による健康チェックを受けています。薬も隣接の薬局により処方してもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が週1回健康チェックを行っている。職員の質問及び相談にも説明や助言など指示をもらっている。 適切なアドバイスで、褥瘡等の経過報告や、完治に至るまで助言や処置方法を受け、個々の対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院時は、定期的に訪問し、担当看護師に状態確認等を行っている。又ケースワーカーのかたと、今後の方針を話し、入退院をスムーズに行えるよう、関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した際の対応・事業者の方針を説明し、理解して頂いている。 又重度化及び終末期のあり方については、主治医より早い段階で家族と共に話し合う機会を設け、今後の方針を決めている。	利用者が重度化した場合には、家族の意向を尊重して対応できるようにしています。ホームの方針については入居時に説明をしています。医療処置が必要な場合には病院への搬送の対応をしています。ホームでは看取りの経験はありませんが、重度化に対応する為、管理者は認定特定行為業務従事者(喀痰吸引など)の認定を受けています。	重度化、終末期の対応について、看取りの指針の整備などの検討をされてはいいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の勉強会に「緊急時の対応」の項目を掲げており、参加を促し急変や事故発生時に備えている。 又今年度は誤嚥による、タッピング方法・吸引方法・救急車の要請等一連の流れを勉強することによって、緊急時対応が慌てずわかりやすくなりました。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署の協力を得、避難訓練を実施している。 避難訓練時には近隣の方にも声掛けし、協力を得ている。	地震・防災対策／非常食マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施しています。内1回は消防署の立会いのものと訓練を行っています。避難訓練の計画や記録は法人を通じて消防署に提出し、控えはホームで残しています。消火器・スプリンクラーの設置をしています。非常口の鍵は職員が管理し、いつでも開けられるようになっています。災害に備えて、食料品は倉庫に、水はリビングのテレビの後ろ側に保管しています。法人特養の管理のもと備蓄の食品の準備はしていますが、賞味期限の管理と確認が必要な状況です。	備蓄については、ホーム独自で、賞味期限をわかりやすく明記するなどして管理をされてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	在宅で過ごされいたが、家族の事情でフローラに入居となった利用者の日々の観察を行い、今までと近い環境で過ごして頂く様、職員間で状態や、対応方法、声の掛け方等を工夫し、情報共有しながら支援に努めている。	プライバシーの保護についての研修を法人で毎年実施しており、職員は参加しています。研修に参加できなかった場合には、資料を閲覧してもらっています。職員の接し方や言葉遣いが気にかかるときには、管理者は個別対応をするようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	他病院の受診時に合わせ、本人の希望で買い物や、喫茶にでかけることもある。 又利用者からの悩みを職員が変わって家族に伝達する事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家に帰りたいと希望する利用者には都度職員付き添いで、出かけ、散歩に行きたいと希望する利用者には希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と共に季節ごとに衣類や下着の購入、衣替えをしている方もいる。 本人の希望に添って買い物に行くこともある。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に調理を行い、準備から盛りつけ、後片付けまでを一緒に行っている。 又季節に応じたおやつを提供等取り入れ、利用者の希望でお寿司のデリバデリも行った。	ご飯はホームで炊いています。毎日配達される副食は温めて、食べやすいようにして提供しています。スタッフが声かけしながら介助しています。毎月1回は調理レクでお好み焼き、焼きそば、鍋物等をしています。訪問した日はお好み焼きの日で、キャベツは利用者が刻んでいました。日々は検食職員を決め、毎日昼食に一人が利用者と同じものを一緒に食べています。毎日のメニューは利用者が手書きしたものを貼っています。隣接する畑からエンドウ豆を頂く事もあり、夏にはキュウリやトマトをプランターで作っており、食卓にでることもあります。利用者の苦手な食材がある時は別メニューを提供しています。その他、誕生日会メニューやお寿司の出前を取る楽しみもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合チェック表に毎回の食事・水分の摂取量を記載している。一人ひとりの一日の量を把握することによって、食事及び水分量の確保をしている。咀嚼機能が低下している方には、ミキサー食を提供し、その方に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科・衛生士の口腔ケアを受けている。 自身で出来ない方などは、専用の口腔ブラシで口腔内を清潔に保てる様支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々に合わせた排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促し、自立に向けた支援を行っている。	総合チェックシートで排泄についてもチェックして、排泄の状況やパターンを確認しています。開設当初から入居している利用者は重度化が進んできていますが、可能な限り排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に水分量や食事量を把握するとともに、おやつ前、食事前のリハビリ体操を取り入れている。 又散歩を取り入れたり、個々に応じて便薬の調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を設定し、利用者の拒否や、外出に応じてその都度対応出来る様体制を整えている。 毎月26日前後は、「風呂の日」として、入浴剤等で楽しんで頂いている。	最低週に2回の入浴日を設定していますが、通院や外食で変更する時もあります。週に4回入浴する利用者もいます。1階の浴室は機械浴になっているので、重度化した利用者も安心・安全に入浴できます。2階は一般浴になっているので、利用者の状態に合わせて1階と2階を使い分けて入浴できます。毎月の風呂の日には色々な入浴剤等で楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はフロアにて、様々なレクリエーションを行っているが、本人の希望に添って自由に休息している。 自宅からの入居の場合、今までの環境を変えることなく、対応する事で安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬介助に関わる為、服薬ミスが無いように色分けしている。 又定期的に服薬を見直し、医師との相談を行い、適切に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中で掃除や炊事・洗濯たみ、縫い物など、利用者に合った役割をして頂いている。 制作する壁画等、利用者同士役割が決まっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は積極的に近隣の散歩に出かけている。又日用品の買い物の希望があれば、車で買い物に行く支援を行っている。 週1回娘と喫茶店などに出かけている利用者もいる。	気候の良い日には近くの公園に散歩に行っています。日用品やおやつを買いに行くこともあります。初詣、花見、紅葉見物、系列の特養に落語を聴きに行くなど行事として外出の機会があります。家族と一緒に毎週喫茶店へ行く利用者もいます。孫の結婚式や亡き夫の法事に行く利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族・本人の協力と理解を得て、自身でこずかい程度を管理している方もいる。その中で買い物に行き、嗜好品を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	友人からの電話がかかってくる、利用者もいる。毎年娘と共に年賀状を書き近況報告を行っている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p><b>○居心地のよい共有空間づくり</b></p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間は利用者が動きやすいように、動線を確保しサブリビングにはソファを置いて家族や友人と談笑できるスペースを作っている。</p> <p>温かい日にはエアコンを使用せず窓を開け自然の風が通るように配慮している。</p> <p>加湿器等を使用し、風邪予防も行っている。</p>	<p>プランターのパンジーが迎えてくれる玄関を入ると、1階と2階に分かれた2つのユニットがあります。それぞれ明るく広い食堂兼リビングとサブリビングが中心にあり、利用者は食事をしたり、思い思いの場所のソファでくつろいでいます。壁には外出や行事の際に撮った利用者の楽しむ笑顔の写真や、利用者が手書きしたその日の食事のメニューが貼られています。利用者の日常生活動作に充分対応可能な清潔で広いトイレや一般浴槽のほかにコンパクトな機械浴槽が設置され、利用者が居心地良く過ごせる共有スペースとなっています。</p>	
53		<p><b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b></p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアでは座る位置がほぼ決まっているが、余暇活動や、軽作業するとき等は利用者同士で座る位置等工夫している。</p> <p>又ソファで一人くつろいでいる利用者もいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自身の馴染のタンス等居室に置かれている方もいる。孫の結婚式に出席した時の写真などを飾っている。	入り口には、手作りの表札が掲げられています。ドアには鍵がついているので、利用者の希望で鍵をかけることができます。居室は明るく、エアコン、カーテン、洗面台が設置されています。利用者に合ったベッドを使用し、使い慣れたタンスや椅子、洋服かけ、テレビ、家族の写真、ぬいぐるみ、カレンダー、時計、衣装ケース等が持ち込まれ、落ち着いた雰囲気になっています。窓からは心地よい風が入っています。利用者一人ひとりの想いを大切に、その人らしく安心できる居場所となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内及び居室内はバリアフリーになっており、独歩の方は手すり等を使用し残存機能が活かせるサポートを行っている。 又トイレ等には使用しているか否かを表示している。		